

# ヨコレイ NOTE VOL.23

第72期報告書

2018年10月1日～2019年9月30日

トップインタビュー・財務ハイライト (P1)

SDGsの取り組み (P3)

営業の概況・事業別の概況 (P5)

連結財務諸表(要約) (P6)

News & Topics (P7)

株主ひろば (P9)

会社情報 (P10)

「食の安全・安心」が家族の笑顔をつくる



## 変化を捉えて、求められる価値を創出し、さらなる飛躍を遂げてまいります。

**Q** 当期(第72期)の営業状況を振り返り、ご説明願います。

売上高は減収、営業利益・当期純利益は横ばいとなりました。

当期は、引き続き冷蔵倉庫事業が好調を維持したものの、食品販売事業は売れ行きの悪化により在庫が増加する厳しい状況に見舞われました。そのため連結業績は、売上高1,399億70百万円(前期比18.5%減)、営業利益47億74百万円(同1.1%減)、経常利益49億45百万円(同8.0%減)、親会社株主に帰属する当期純利益33億85百万円(同1.3%増)となりました。

冷蔵倉庫事業は、2018年に新設した東京羽田物流センターおよび名港物流センターを含め、各物流センターが高い稼働率を維持し、売上高・利益を伸ばしました。貨物が潤沢に海外から入り、また近年増加した自然災害を受け、荷主様が保管先を分散し、より安全な倉庫を選ばれる動きが広がっています。一方、THAI YOKOREI CO.,LTD.によるタイ事業も、鶏肉や乳製品、果物、米などを中心に在庫が増加し、好業績を収めました。

食品販売事業は、ノルウェー養殖事業が順調に推移しながらも、国内の輸入品販売は全般的に厳しい状況となり、在庫の過剰を招きました。特に畜産品は5月連休以降、急激に売れ行きが停滞しました。また、水産品では国内主要漁港での水揚げ不調に伴う取扱量の減少や、ホッケ・アカ

### ごあいさつ

このたび日本各地を襲った台風および豪雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と被災地の一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

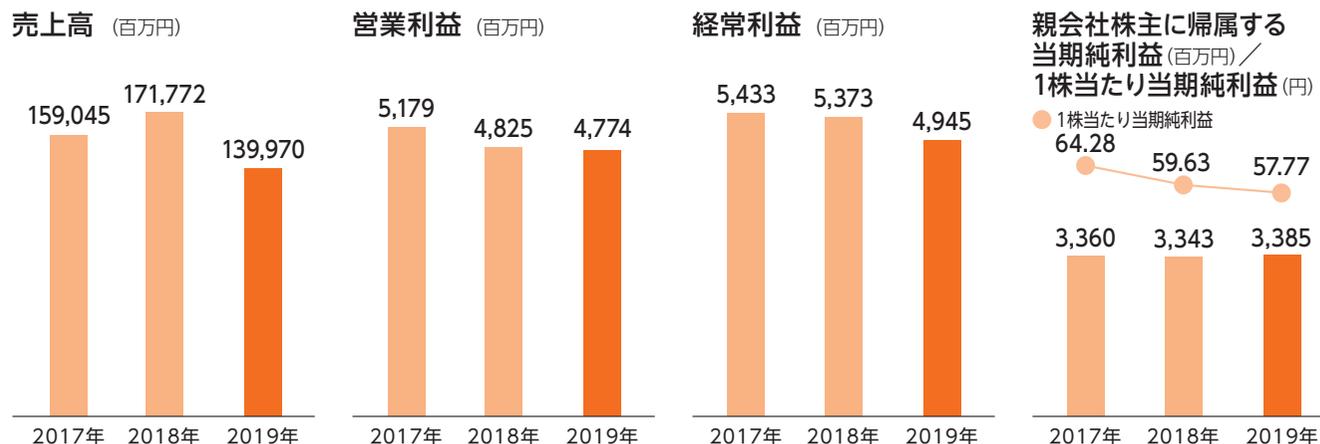
株主の皆様には、日頃より当社事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

このたび、代表取締役社長に就任した松原 弘幸と申します。今後も「会社は社会の公器であり、利益は奉仕の尺度である」という経営理念のもと、企業価値の向上に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2019年12月

代表取締役社長 **松原 弘幸**

### 財務ハイライト



ウオなどの一部品目で売却損が発生しました。結果として食品販売事業は、売上高・利益とも前期を大きく下回りました。なお当期は、為替変動対策の一環として、ノルウェーから欧米への鮭鱒輸出事業の計上基準を変更したことに伴う売上高の減少が発生しています。

## Q 中期経営計画の最終年度となる 今期(第73期)の見通しは？

中計方針は着実に進展しているものの、売上高・利益の目標数値は修正いたしました。

第六次中期経営計画「Growing Value 2020」は、付加価値の拡大による「質と量の成長」をテーマに掲げた3ヵ年計画です。これまでの2年間で、冷蔵倉庫事業は着実な成果を上げ、「フルネットワークニーズへの対応力強化と低温物流効率化を主導的に推進する」という中計方針を具現化してきました。食品販売事業は、「サステナビリティに配慮した垂直統合ビジネスモデルの構築」を目指す中計方針のもと、ノルウェーのトラウト養殖事業を成長させ、食品資源の開発を果たしました。しかし、調達コストが上昇しているにもかかわらず国内市場における価格選好の根強さに加え、サンマや秋鮭などの不漁が続いており、食品販売事業計画進捗は、見込みを下回っている状況です。

そのため「Growing Value 2020」の最終年度目標である「売上高1,600億円」「営業利益・経常利益70億円」「親会社株主に帰属する当期純利益45億円」を修正し、「売上高1,430億円」「営業利益54億円」「経常利益60億円」「親会社株主に帰属する当期純利益39億円」といたしました。

今期は、新設拠点として「つくば物流センター(仮称)」を

2020年2月に、横浜物流センターのサテライトセンターとして機能する「横浜みらいサテライト」を2020年4月に、それぞれ竣工する予定です。これらの新規稼働による貢献も含め、冷蔵倉庫事業は引き続き各拠点の高稼働を維持し、売上・利益を拡大できる見通しです。

食品販売事業は、過剰在庫の圧縮が重要な課題となります。特に国内在庫が潤沢となっている鶏肉と、値段を大きく下げている底魚(ホッケ・アカウオ)の在庫調整を早急に変更し、需給バランスを是正していく考えです。その上で、東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴うインバウンド需要の増加を注視しつつ、養殖事業・輸出事業への注力等、業績改善に向けた取り組みを進めていきます。2020年5月には魚の選別、凍結、箱詰めまでを自動で行うラインを備えた「長崎ソーティングスポット(仮称)」が稼働予定です。また2020年1月には、株式会社アライアンスシーフーズと株式会社クローバートレーディングの吸収合併を予定しており、これによる事業効率・経営効率の改善効果を活かしていきます。

## Q 今後に向けた新たな取り組みについて お聞かせください。

子会社による食材調達・供給機能を本社に統合。  
また新設拠点に教育・研修施設を併設します。

先に述べました通り、当社は2020年1月1日付で株式会社アライアンスシーフーズおよび株式会社クローバートレーディングの吸収合併を実施する予定です。

2008年に子会社化した株式会社クローバートレーディングはウナギの輸入販売会社として、2009年に設立

した株式会社アライアンスシーフーズは水産物の輸入商社として、それぞれ食品販売事業の食材調達・供給機能を果たしてきました。両社を当社の食品販売部門に統合することで、事業効率を高め、意思決定を迅速化し、調達力・開発力・販売力の強化を図ることが吸収合併の狙いです。また、経理などバックオフィス作業の重複を排し、経営効率の改善につなげていきます。

もう一つの新たな取り組みとして、当社は「横浜みらいサテライト」と同一敷地内に、社員教育・研修施設「横浜みらいHRD(Human Resource Development)」を併設します。「横浜みらいサテライト」も、社員の現地研修を行う施設として活用していく考えです。

「横浜みらいHRD」は、フロアに100人が座学できる部屋を備え、社員のスキル向上や知識向上に活用していきます。さらに大規模なソフトウェア開発が可能なシステム開発センターとしての機能も導入する予定です。どのような設備・システムが当社の拠点にフィットするかを検証し、カスタマイズする役割を果たしていきます。



# 未来に向けて行動するヨコレいのSDGs対応

最近、企業活動やマスメディアなどを通じて「SDGs」という言葉がさかんに聞かれるようになってきました。地球規模で進められている未来づくりの取り組みであり、当社が創業以来のポリシーとして掲げてきた経営理念にもつながるSDGsについて解説します。

## 持続可能な開発目標とは？

SDGs:エスディーゼーズ(Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)は、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までの国際目標です。地球上に住む人々が抱えている様々な問題を解決し、持続可能な世界を実現するために各国が合意した17の目標と169のターゲットが示され、国際社会において達成に向けた取り組みが行われています。



## SDGsが求める5つの基本条件

下記に示す通り、SDGsには基本条件となる5つの特徴があります。日本政府が2016年12月に定めた「SDGs実施方針」においても、これらの項目に準じた「5つの主要原則」を挙げています。

- |      |                                 |
|------|---------------------------------|
| ①普遍性 | 先進国を含め、全ての国が行動する                |
| ②包摂性 | 人間の安全保障の理念を反映し、誰一人取り残さない        |
| ③参画型 | 全てのステークホルダー(政府、企業、NGO、有識者等)が役割を |
| ④統合性 | 社会・経済・環境は不可分であり、統合的に取り組む        |
| ⑤透明性 | モニタリング指標を定め、定期的にフォローアップ         |

## ヨコレイが今、取り組んでいるSDGsテーマは？

食に携わる企業として、当社は多くのSDGsテーマとの密接な関わりを意識しています。ステークホルダーとともに持続的に成長していく上で、いずれも避けて通ることができないテーマであり、当社はその課題解決を通じて2030年の先に向けた飛躍を遂げてまいります。

### ヨコレイの取り組み1

## 事業における全社的な環境保全

事業を通じて環境保全を図るべく、自然冷媒や太陽光発電システム、省エネルギー設備を物流拠点に導入するとともに、廃棄物の適正処理やリサイクル化、エコ製品の購入といった活動を全社で推進しています。その証として、環境保全に注力する事業者を対象とした「グリーン経営認証」を全事業所で取得しています。



太陽光発電システムの導入



自然冷媒冷凍機

## ヨコレイの取り組み2

### 持続可能な水産物づくりの推進

食品販売事業では、トラウト養殖を手掛けるノルウェー子会社が「ASC (水産養殖管理協議会) 認証」を取得。環境に負荷をかけず地域社会と労働者に配慮した、持続可能な水産物づくりの担い手として認められています。水産物のトレーサビリティを確保する「CoC認証」の取得も事業所単位で順次進めています。



## ヨコレイの取り組み4

### ダイバーシティへの取り組み

近年の女性活躍推進の流れを背景に、当社でも女性の総合職社員や出産後に職場復帰する社員が増えており、女性が働きやすい職場環境の整備を進めています。キャリアプランに応じた職種転換制度の導入など、様々な取り組みを通じて多様な働き方をサポートし、全ての従業員が活躍できる場を広げていきます。



## ヨコレイの取り組み3

### 省人化・自動化システムの導入

カーゴナビゲーションシステム、電動式移動ラック、トラック予約受付システムなどの先進的な設備を物流拠点に積極導入。労働負荷の軽減とともにイノベーションの土壌を築いています。



カーゴナビゲーションシステム



トラック予約受付システム



電動式移動ラック



## ヨコレイの取り組み5

### 寄付金・協賛金による支援

横浜市教育委員会のイベント事業を支援している他、多くの文化事業への協賛や福祉団体への寄付などを継続的に実施しています。



## ヨコレイの取り組み6

### 地域社会への貢献活動

地元サッカークラブ「横浜FC」のオフィシャルクラブトップパートナーとしてのスポーツ振興や、新江の島水族館のエコ活動への協賛により、地域社会に貢献しています。



# 営業の概況・事業別の概況

## 営業の概況

### 当期の概況

食品関連業界では、仕入れコスト、人件費・物流コストの上昇に加え、2019年10月には消費税増税が実施され、個人の消費動向は依然として予断を許さない状態が続く。

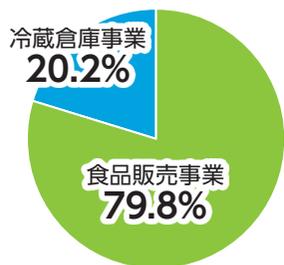
冷蔵倉庫事業では、新設した物流センターが順調に稼働したことや、付加価値サービスの拡大に取り組み、増益に貢献したことから、引き続き好調を維持。

食品販売事業では、国内事業において夏場以降の荷動き停滞や、不漁に伴う取扱量の減少などにより、水産品が不調。

### 事業別売上高構成比

当期 (2019年9月期)  
売上高合計

**139,970**百万円



### 第73期の見通しと業績予想

第73期は第六次中期経営計画の最終年度となりますが、当社を取り巻く経済状況、事業環境等を総合的に勘案し、目標数値を修正しています。

2020年1月1日には、連結子会社である(株)アライアンスシーフーズ及び(株)クローバートレーディングを吸収合併します。この統合により、迅速な戦略・意思決定を図り、当社の調達力・開発力・販売力をさらに強固なものとし、

売上高	1,430	億円
営業利益	54	億円
経常利益	60	億円
親会社株主に帰属する当期純利益	39	億円
1株当たり当期純利益	60円54銭	

## 事業別の概況

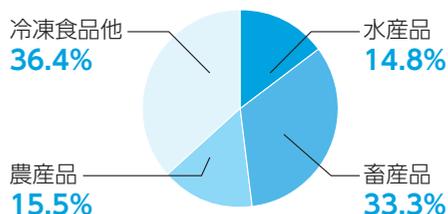
### 冷蔵倉庫事業

昨年新設した東京羽田物流センター、名港物流センターが順調に稼働し増収。既存の物流センターは、中計の主要施策である付加価値サービスの拡大に取り組み、増益に貢献。

タイの連結子会社THAI YOKOREI CO.,LTD.は、同国内での畜産品を中心とした高い在庫水準が続いており、増益に寄与。

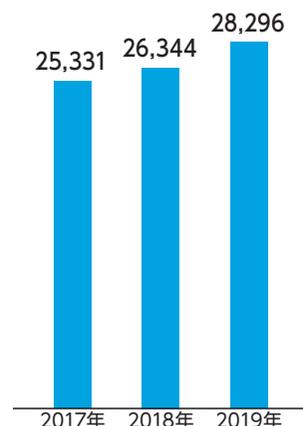
冷蔵倉庫事業の業績は、売上高は28,296百万円(前期比7.4%増)、営業利益は6,349百万円(前期比4.6%増)の増収増益。

### 当期在庫量品別割合



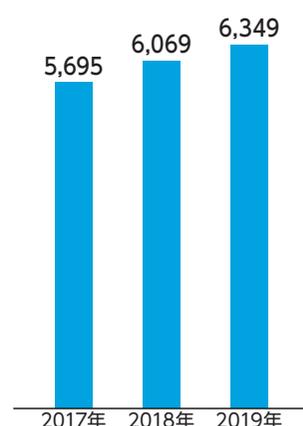
### 売上高

(百万円)



### 営業利益

(百万円)



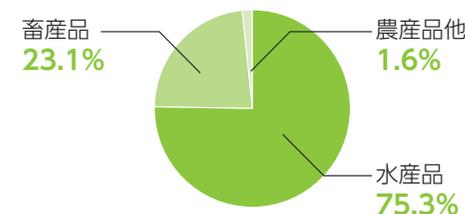
### 食品販売事業

水産品は、売却損の発生したイカ・ホッケ・アカウオが当期では大幅な減益。ノルウェー養殖事業は、国内在庫の消化が進み、大幅な増益。

畜産品は、ポークは荷動きの停滞から減益となったものの、前年の相場悪化から回復したチキンが大幅な増益。農産品は、取扱量を落としたものの増益。

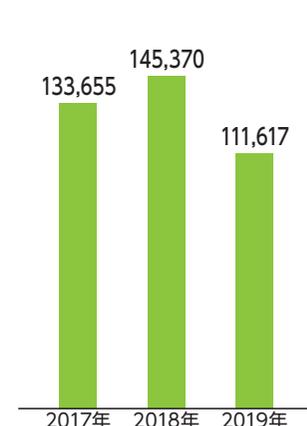
食品販売事業の業績は、売上高は111,617百万円(前期比23.2%減)、営業利益は1,023百万円(前期比14.8%減)の減収減益。

### 当期品別売上高構成比



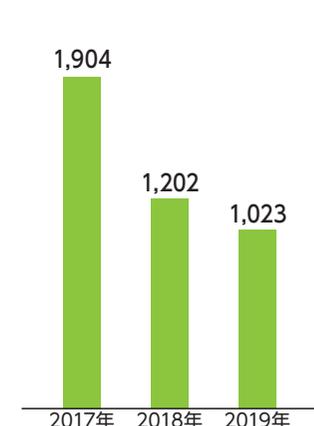
### 売上高

(百万円)



### 営業利益

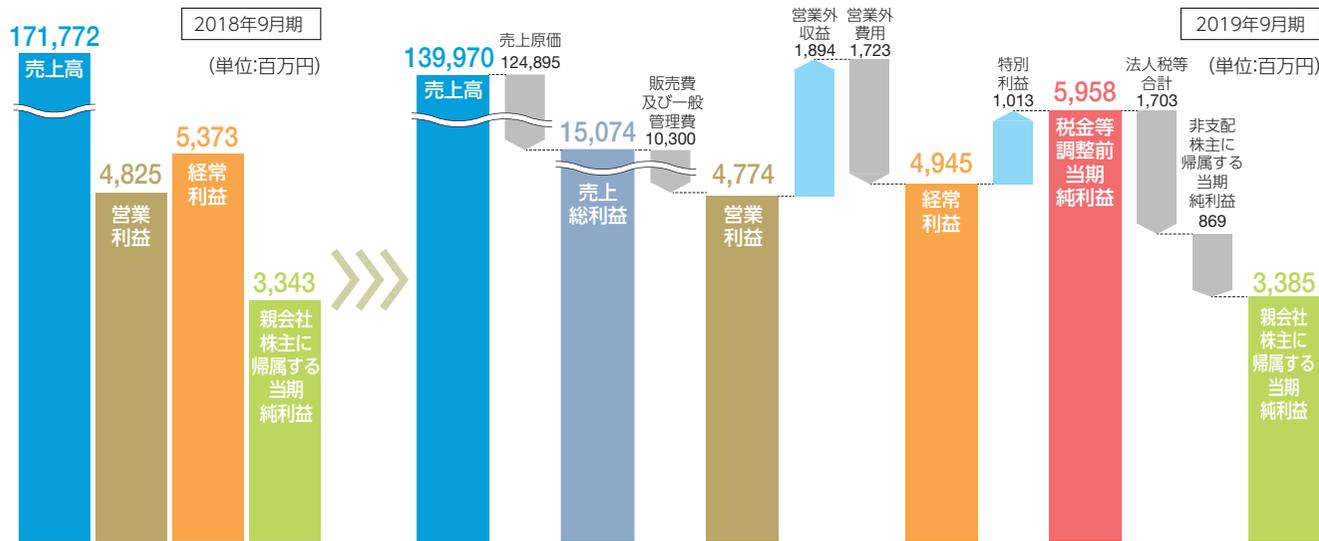
(百万円)



# 連結財務諸表(要約)

## 連結財務状況

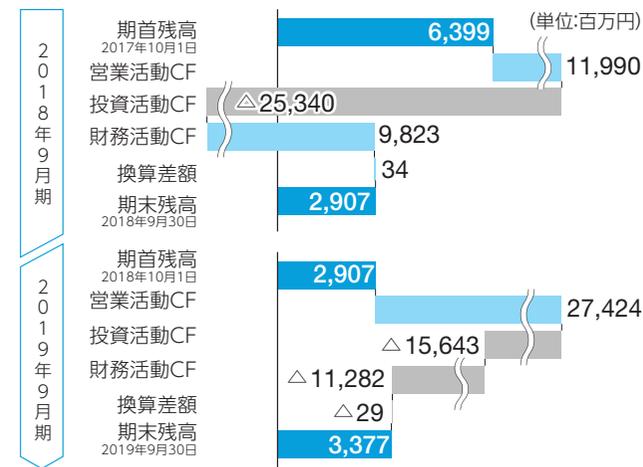
### ◆ 損益の状況



### ◆ 資産・負債・純資産の状況



### ◆ キャッシュ・フローの状況



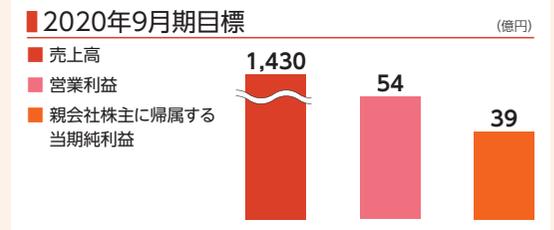
## もっとくわしく!

### 中期経営計画の見直し

このたび、当社を取り巻く経済状況、事業環境等を総合的に勘案し、中期経営計画の目標数値を修正しました。現在、当社は企業価値の向上と持続的な成長に向け、各施策に取り組んでいます。

冷蔵倉庫事業では、設備への投資を行うことで、中長期的に高い収益性と成長性を実現します。また、近年問題となっている人手不足に関しては、当社の持つ自動化・半自動化システムをレベルアップさせ、社員だけでなく、ドライバーも含めた負担軽減に繋げてまいります。

食品販売事業では、ノルウェーでの養殖事業をはじめとする資源の開発に努めるだけでなく、海外で需要のある国産水産物の輸出に力を入れていきます。2020年1月1日には、連結子会社である(株)アライアンスシーフーズ及び(株)クローバートレーディングを吸収合併し、迅速な戦略・意思決定を行い、当社の調達力・開発力・販売力をさらに強固なものとしします。



<http://www.yokorei.co.jp/investors/index.html>

## 冷蔵倉庫事業

### 名港物流センター竣工

愛知県名古屋市区に「名港物流センター」を竣工いたしました。当センターが位置する名古屋港は、中部地方の産業・生活を支える国際貿易港として1907年に開港。現在は自動車関連貨物を中心に、総取扱貨物量16年連続の全国第1位となっており、東名高速道路、東海環状自動車道など主要道路と繋がる伊勢湾岸自動車道が横断する、物流の要衝となっております。当センターの竣工により、既存の小牧物流センター、名古屋物流センター、中川物流センターと有機的に連携し、より貨物の特徴にあった保管環境をご提供することで中京圏の低温物流網を拡大いたします。



2018年  
11月

## 冷蔵倉庫事業

### つくば物流センター新設

茨城県つくば市に「つくば物流センター(仮称)」を着工いたしました。圏央道と常磐道が交差する物流の要衝に位置し、北関東、東関東の陸上・海上物流の拠点となるセンターです。竣工は、2020年2月を予定しており、同センターが完成すると、国内外あわせた収容能力が100万トンを突破します。



2018年  
12月

2019年  
6月

2019年  
7月

2019年  
8月

2019年  
9月

## 冷蔵倉庫事業

### PICK UP

### アイランドシティ物流センター新設

福岡県福岡市に「アイランドシティ物流センター(仮称)」を着工いたしました。2021年1月の竣工を予定しています。

### ホワイト物流推進運動への賛同

物流業界では、トラックドライバー不足が深刻化し、配送手段の安定確保が難しい状況が続いています。国土交通省は、ドライバーの働き方改革を進めつつ物流を維持するため、①トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化や、②女性や60代以上の運転者等も働きやすい、より「ホワイト」な労働環境の実現に取り組む「ホワイト物流」推進運動を進めています。

当社はこの推進運動に賛同し、2019年7月、同省に自主行動宣言を提出しました。当社は、トラック予約受付システムを開発・導入するなど、トラックドライバーや庫内オペレーションに従事する社員の労働環境改善に努めており、今後も持続的・安定的な物流の確保に向けた取り組みを続けていきます。



## 食品販売事業

### PICK UP

### 長崎ソーティングスポット新設

長崎県長崎市三京町に「長崎ソーティングスポット(仮称)」を着工いたしました。2020年5月の竣工を予定しています。

## 全社

### PICK UP

### 横浜みらいHRD、横浜みらいサテライト新設

神奈川県横浜市神奈川区守屋町の子安物流センター跡地に「横浜みらいHRD」、「横浜みらいサテライト」を着工いたしました。2020年4月の竣工を予定しています。

## 食品販売事業

### 連結子会社吸収合併

当社の完全子会社である株式会社アライアンスシーフーズ及び株式会社クローバートレーディングを2020年1月1日を効力発生日として吸収合併することを決定いたしました。当社グループの食品販売事業部門では、「食料資源の開発と食プロデュースによる安定供給構造の構築」を目指しており、食品販売事業を統合することによって、調達力・開発力・販売力をさらに強固なものにするとともに、迅速な意思決定を図ることが今後の成長戦略に不可欠であると判断いたしました。

## 全社

### 横浜FC冠試合開催

7月20日、当社冠試合「YOKOREI CHALLENGE MATCH」(栃木SC戦)が開催されました。社員やその友人・家族、取引先ら約100名が応援に駆けつけました。試合前には社員、社員の子供達による「フラッグベアラー」「エスコートキッズ」などのイベントが行われました。



## 全社

### 個人投資家説明会・個人株主様向け施設見学会の開催

2019年3月の東京都内を皮切りに、大阪、横浜で個人投資家向け会社説明会を開催し、385名の個人投資家の方にご参加いただきました。また、3月2日には東京羽田物流センターにて当社初となる個人株主様向け施設見学会を行いました。



## 長崎ソーティングスポット

長崎県周辺の海域は、黒潮から分岐した対馬海流が流れ、広大な大陸棚がひろがるなど、多種多様な魚が集まる条件を備えており、水揚げ量は国内トップクラスの日本有数の漁場となっております。当社は県内に営業所と冷凍工場を保有し、魚の買い付け、凍結、保管、販売までを一貫して行っており、近年では凍結したサバを海外へ輸出する事業に力を入れております。

設備には、魚の選別、凍結、箱詰めまでを自動で行うラインを導入して作業時間を削減し、社員の作業負担を軽減します。また、凍結、保管の際に使用する冷媒には自然冷媒(NH<sub>3</sub>/CO<sub>2</sub>)を用い、屋上には太陽光発電パネルを設置。「人」「もの」「地球」に優しい施設となっております。

このソーティングスポットを通じて、アフリカ・東南アジアへ日本の素晴らしい魚を輸出していきます。



長崎ソーティングスポット

### 長崎ソーティングスポット (仮称) の概要

- |          |                        |       |                            |
|----------|------------------------|-------|----------------------------|
| ●冷蔵倉庫タイプ | 凍結および冷蔵倉庫              | ●凍結能力 | 165.88t                    |
| ●所在地     | 長崎県長崎市三京町646番60、646番65 | ●主な設備 | 急速凍結設備 165.88t (41.47t×4室) |
| ●敷地面積    | 16,463.31㎡(4,980.15坪)  |       | 自動鮮魚選別ライン・自動脱パンライン         |
| ●収容能力    | 4,779.01t              | ●竣工   | 2020年5月予定                  |

## アイランドシティ物流センター

当センターが位置する福岡市の博多港は、沖縄(那覇港)や東南アジアなど、国内外の主要貿易港とのアクセスに優れ、各国から貨物が集まる輸入港となっております。また、近年では農林水産品の輸出取扱いにも力を入れております。中でも開発が進むアイランドシティは、国際物流拠点としての港湾機能の強化がされており、大型コンテナ船が同時接岸できる国際コンテナターミナルや高速道路の整備も予定され、日本各地と世界を結ぶマルチ・クロス・ポートとして、今後もさらなる発展が期待されています。

設備には、自然冷媒(NH<sub>3</sub>/CO<sub>2</sub>)を用いた貨物に優しい自然対流冷却方式(Sittory2)を採用。電動式移動ラックは「カーゴナビゲーションシステム」と連動させることで、フォークリフトによる庫内入出庫作業を円滑にし、作業時間の短縮化を図っていきます。また、屋上に太陽光発電システムを設置し、「人」「もの」「地球」に優しい冷蔵倉庫となっております。



アイランドシティ物流センター

### アイランドシティ物流センター (仮称) の概要

- |       |   |       |                                    |
|-------|---|-------|------------------------------------|
| ●所在地  | 福岡県福岡市東区みなと香椎3-29-8<br>アイランドシティみなとづくりエリア内 | ●主な設備 | 高効率自然冷媒冷凍機<br>屋上太陽光発電システム(487.4kW) |
| ●敷地面積 | 14,503.75㎡(4,387.28坪)                     |       | 電動式移動ラック、カーゴナビゲーションシステム            |
| ●収容能力 | 32,264.96t                                | ●竣工   | 2021年1月予定                          |

## 横浜みらいHRD 横浜みらいサテライト

横浜みらいHRD (Human Resource Development) は、ヨコレイの資源である社員の教育・研修を行う施設となります。フロアには1度に100人が座学を行うことができる部屋を備えております。また、今後の戦略的ICT投資に向け、大規模なソフトウェア開発が可能なシステム開発センターとしての設備も備えた施設となっております。

横浜みらいサテライトは、横浜物流センターのサテライトセンターとしての機能を持ちつつ、併せて社員の実地研修を行う施設となります。

全国展開始まりの土地を、今後はヨコレイの人材育成の地として活用していきます。



# 株主ひろば

## 株主さま施設見学会実施のお知らせ(3月)

当社の取り組みについてよりご理解いただけるよう、東京羽田物流センターにて株主さま施設見学会を開催いたします。参加ご希望の方は、ハガキまたは「広報IR部メールアドレス」よりお申込みください。



**開催日** 2020年3月18日(水)

**お申込み期限** 2020年1月31日(金) 消印有効

**募集人数** 20名(お申込み多数の場合は抽選にて決定)  
※当選された株主様のみにご連絡いたします。

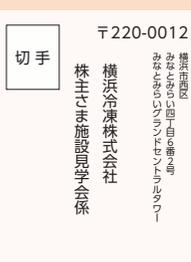
### 応募方法は2種類

#### ●ハガキで応募の場合

郵便ハガキに必要な事項をご記入の上、ご郵送ください。(郵送料は株主様にてご負担くださいますようお願い申し上げます。)



- ①氏名(ふりがな)・年齢
- ②株主番号
- ③郵便番号・住所
- ④電話番号
- ⑤同伴者様の氏名・年齢



#### ●WEBで応募の場合

下記のメールフォームより応募ください。

[info@yokorei.co.jp](mailto:info@yokorei.co.jp)

- ①氏名(ふりがな)・年齢
  - ②株主番号
  - ③郵便番号・住所
  - ④電話番号
  - ⑤同伴者様の氏名・年齢
- をご記入ください。



## 株主さまからのご質問にお答えします。



### Q 災害対策について教えてください。

阪神淡路大震災で被災した経験から、当社の冷蔵倉庫は耐震性に優れた構造を採用しています。断熱・防熱性にも優れ、停電などで冷凍機が停止したとしても、扉を閉めたままなら相当期間は庫内温度を保つことができます。2011年に発生した東日本大震災の際、仙台物流センターと気仙沼冷凍工場は津波の直撃を受けましたが、浸水以外に建物へのダメージはありませんでした。また、2018年に発生した北海道胆振東部地震や西日本に大きな被害を与えた台風21号でも、当該地区の冷蔵倉庫では停電が3日~4日間発生しましたが、建物自体にも、中の貨物にも問題は発生しませんでした。

そのほかにも、東日本大震災以降に新設した冷蔵倉庫では、電源や冷凍機を2階以上に設置し浸水被害に備えているほか、停電時の通信・事務処理用非常電源として屋上太陽光発電とリチウムイオン電池を利用するなど、緊急時の対応を整えています。

近年の自然災害増加に伴い、お客様はより安全な冷蔵倉庫を選ぶ傾向が強くなっており、当社には追い風となっています。

### Q 人手不足にどう対応していますか？

少子高齢化、時間外労働の規制が厳しくなる中で、人手不足への対応や作業の効率化は喫緊の課題となっています。そのため当社では、庫内作業の省力化・省人化を目指し、庫内オペレーションの自動化・半自動化・IT化に力を入れると同時に、社員の教育・育成の強化や女性・高齢者を含めた通年採用を積極的に行っています。

2018年2月に発足したIT推進チームが部門横断的に活動を行ってききましたが、2020年1月には専任グループを組織し、各種機器の活用とIT化の推進を加速することで人材不足への対応をより一層進めてまいります。

現在、冷蔵倉庫では、若手社員でもベテラン社員のようなスムーズな出庫作業ができるカーゴナビゲーションシステム、コンテナからの荷下ろし作業を簡易化する昇降式デバンダ、人手を大幅に削減した魚の自動選別・凍結システム、ドライバーの待機時間だけでなく、庫内作業における待機時間も削減するトラック予約受付システムなど、各冷蔵倉庫の特徴にあわせた当社独自の省力化・省人化設備を導入しています。

その結果、これらの設備を導入した冷蔵倉庫では、社員の作業時間を3割削減したほか、荷下ろし作業の人員を減少させることができました。引き続き通年採用を行いつつ、ペーパーレス化を見据えた業務効率化や、ドライバー向けの夜間受付に対応したトラック予約受付システムへの進化など、最新鋭のシステム・設備を検討・導入し、人手不足に対応してまいります。

## 会社概要 (2019年9月30日現在)

会社名 横浜冷凍株式会社

本社所在地 〒220-0012  
横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号  
みなとみらいブランドセントラルタワー7階  
TEL: 045-210-0011 (代表)  
FAX: 045-210-0018

設立 1948年5月13日

資本金 14,303,426,625円

従業員数 連結 1,657名 単独 1,184名

業務内容 1. 冷蔵倉庫業並びに普通倉庫業  
2. 水産品の加工、販売並びに輸出入  
3. 農畜産物の加工、販売並びに輸出入  
4. 不動産賃貸業  
5. 通関業  
6. 貨物利用運送事業並びに貨物自動車運送事業  
7. 食堂及び喫茶店の経営並びに飲食物の販売  
8. その他前各号に付帯関連する一切の事業  
(定款における事業目的)

## 役員および執行役員 (2020年1月1日現在)

代表取締役会長	吉川 俊雄	上席執行役員	野崎 博嗣
代表取締役社長	松原 弘幸	執行役員	千田 重賢
取締役副社長	井上 祐司	執行役員	安田 正美
取締役	越智 孝次	執行役員	岩倉 正人
取締役	吉川 尚孝	執行役員	池田 浩人
取締役	花澤 幹夫	執行役員	田中 明彦
取締役	古瀬 健児	執行役員	吉田 豊
取締役	岡田 洋	執行役員	内山 卓爾
取締役(社外)	加瀬 兼司	執行役員	星野 義明
取締役(社外)	酒井 基次	執行役員	織田 政和
常勤監査役	中西 啓文	執行役員	中尾 成人
常勤監査役(社外)	阿部 博康	執行役員	根岸 尚登
監査役(社外)	棚橋 栄蔵	執行役員	星 光孝
監査役(社外)	西元 徹也	執行役員	小松 晃子

## ネットワーク (2020年1月1日現在)

### 冷蔵倉庫事業 45拠点

**北海道ブロック**  
十勝物流センター  
十勝第二物流センター  
十勝第三物流センター  
石狩物流センター  
石狩第二物流センター  
喜茂別物流センター

**東北・圏央ブロック**  
八戸物流センター  
気仙沼冷凍工場  
仙台物流センター  
加須物流センター  
加須第二物流センター  
幸手物流センター  
鶴ヶ島物流センター  
伊勢原物流センター

**京浜ブロック**  
東京羽田物流センター  
東京物流センター  
東京第二物流センター  
大黒物流センター  
横浜物流センター  
山内物流センター

**中京・東海ブロック**  
沼津物流センター  
大井川物流センター  
名港物流センター  
小牧物流センター  
名古屋物流センター  
中川物流センター

**阪神ブロック**  
夢洲物流センター  
北港物流センター  
舞洲物流センター  
西淀物流センター  
六甲物流センター

**九州ブロック**  
福岡物流センター  
箱崎物流センター  
鳥栖物流センター  
鳥栖第二物流センター  
唐津冷凍工場  
長崎冷凍工場  
佐世保冷凍工場  
都城物流センター  
都城第二物流センター  
志布志物流センター  
鹿児島物流センター  
川辺物流センター  
枕崎冷凍工場  
山川冷凍工場

### 食品販売事業 28拠点

札幌営業所  
十勝営業所  
東日本畜産営業部  
名古屋出張所  
西日本畜産営業部  
福岡出張所  
海外営業1部  
海外営業2部  
海外営業3部  
海外営業4部  
東京営業所  
仙台出張所  
名古屋営業所  
沼津出張所  
大阪営業所  
福岡出張所  
八戸営業所  
気仙沼冷凍工場  
石巻出張所  
銚子営業所  
茨城出張所  
唐津冷凍工場  
佐世保冷凍工場  
長崎営業所  
枕崎冷凍工場  
鹿児島出張所  
企画開発部  
販売管理部

### 連結子会社

THAI YOKOREI CO.,LTD. (タイ)  
ワンノイ物流センター  
ワンノイ物流センター2号棟  
バンパコン物流センター  
バンパコン第2物流センター  
サムロン物流センター

BEST COLD CHAIN CO.,LTD. (タイ)  
Syvde Eiendom AS (ノルウェー)  
HIYR AS (ノルウェー)  
Hofseth Aqua AS (ノルウェー)  
Aqua Shipping AS (ノルウェー)  
Aspoy AS (ノルウェー)

### 非連結子会社

株式会社グローバルエイジェンシー  
パックス冷蔵株式会社  
Yokorei Co., Ltd. (タイ)

## 株式の状況 (2019年9月30日現在)

発行可能株式総数 ..... 160,000,000株  
発行済株式の総数 ..... 59,266,684株  
株主数 ..... 13,629名

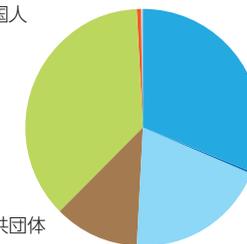
### 大株主(上位10名)

大株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,081	5.22
株式会社松岡	2,503	4.24
第一生命保険株式会社	2,205	3.74
株式会社横浜銀行	2,176	3.69
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,172	3.68
農林中央金庫	1,473	2.50
株式会社八丁幸	1,411	2.39
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,279	2.17
横浜冷凍従業員持株会	1,112	1.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,105	1.87

(注) 持株比率は自己株式(336,251株)を控除して計算しております。

### 所有者別株式分布状況

■ 金融機関 18,620千株 31.41%	■ 外国法人・外国人 6,832千株 11.53%
■ 金融商品取引業者 132千株 0.22%	■ 個人・その他 21,817千株 36.81%
■ その他の国内法人 11,519千株 19.44%	■ 自己名義 336千株 0.57%
	■ 政府・地方公共団体 9千株 0.02%



## 株主還元方針

### 配当金・配当性向

当社では、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営目標の1つとして認識し、長期安定配当の実現を基本方針としています。この方針に基づき、当期の期末配当金は1株当たり11.5円とし、年間配当金は23円とさせていただきます。

● 配当性向の推移 (連結 単位:%)



● 配当金の推移 (円) □ 中間 □ 通期 □ 記念配当



### 株主優待

(1) 1,000株以上~3,000株未満  
保有の株主さま

「ヨコレイグループ生産  
サーモントラウト詰合せ」  
サーモントラウト切身(無塩) (80g×3切×2パック)  
サーモントラウト切身(有塩) (80g×3切×2パック)  
スモークサーモン (50g×3/パック)



(2) 3,000株以上保有の株主さま

「北海道産の  
ホタテ・いくらセット」  
いくら醤油漬け(500g)  
生食用ホタテ貝柱(1,000g)



### 株主メモ

事業年度	10月1日より翌年9月30日まで
定時株主総会	12月 定時株主総会の議決権 9月30日
基準日	剰余金の期末配当 9月30日 剰余金の中間配当 3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告した日
公告の方法	電子公告 ※電子公告は当社ホームページに掲載します。なお、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。 <a href="https://www.yokorei.co.jp/investors/publication/index.html">https://www.yokorei.co.jp/investors/publication/index.html</a>
単元株式数	100株
上場取引所	東京証券取引所(第1部)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日綱町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

### (ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### ホームページのご紹介

▶ <https://www.yokorei.co.jp/>

ヨコレイのホームページでは当社の最新ニュースや事業紹介に加え、IR情報が一目でわかるIR情報インデックスや財務ハイライトなど、個人投資家の皆さまに当社を深くご理解いただけるよう、様々なコンテンツを掲載しております。また、食の安全・安心や環境、社会貢献活動などのCSRの取り組みをご紹介します。ヨコレイでは、今後もさらにわかりやすく、充実したホームページを目指してまいります。

